

Nakaza's new theory of relativity will revolutionize physics in the modern physics community. The entire picture of the universe we have held to be correct based on electromagnetic wave observations will be overturned. Einstein's theory of relativity will suffer the same fate as the geocentric theory.

前回、AI は、アインシュタインの相対性理論に批判的であった代表的な物理学者らの名を挙げてくれました。その中でも、特に、Dingle は、長く激しい批判を繰り返し、科学誌の最高峰と言われる Nature や Science でも批判を繰り返しています。それへの反証として Hafele & Keating (1971) らの飛行機を用いた検証実験が行われています。現代においてみれば、彼らの実験結果は、正確さを疑われるものであるが、アインシュタインの理論の正しさとその存在を人々に訴えるには十分なものであったと言えます。「確かに、一定速度で移動する時計は遅れを示している」

AI がアインシュタインの相対性理論に批判的であった物理学者として名を挙げたのは、過去あるは、現在、世界中にいた（あるいは、いる）批判者らのほんのほんの数例であって、それらを皆挙げるとなると枚挙にいとまがありません。批判的な方々の大多数の論理は、「双子のパラドックス」に代表されるように、「アインシュタインの相対性理論は、パラドックスを派生する」というものとなっています。しかしながら、現代物理学界の認識は、「パラドックスではない」となっており、「ないものは無い」議論にすらならないし、「話にならない」というのが実情です。

アインシュタインの相対性理論の予測は、恐らく物理学界が行うすべての実験において、実験結果と符合しています。「物理学理論の正しさは、実験によって検証される」その結果、アインシュタインの相対性理論の正しさは、いまや議論するまでもない、となっているのです。

アインシュタインの相対性理論の「解」は、「4次元時空の歪み」となります。時間の遅れ、長さの縮み、その他すべてが、「4次元時空の歪み」の結果として説明されます。よって、アインシュタインの相対性理論の「解」は、「万物は無条件に4次元の時空に従う」と説明することができます。例えば、太陽の周りを光が通過すると、光の伝播経路が曲がります。「なぜか」、「太陽の周りの時空が歪んでいるから」と説明されて、そのことは、アインシュタインの相対性理論「万物は無条件に4次元の時空に従う」ということの実証とされています。

例えば、膨らんでいる風船を時空に例えて、その中に、柔らかいボールを入れておくと、風船のふくらみが縮むと中のボールも縮んでいく、風船の膨らみが増すと、同時に中のボールも膨らんでいく。これが、アインシュタインの相対性理論の「解」、「万物は無条件に4次元の時空に従う」ということの例えとなります。

次に、高精度な原子時計の計測時間について議論してみましょう。アインシュタインの相対性理論の「解」は、「万物は無条件に4次元の時空に従う」を与えるので、地上で組み立てられた原子時計は、高度約2万 km 上空で、一日に 38ns (ナノセカンド)、予測通りに、地

上に静置された原子時計の計測時間よりも「進む」ことが計測されています。これをもって「アインシュタインの相対性理論は、すでに証明されている」と説明されています。

高度 2 万 km 上空にある GPS 衛星の原子時計は、一日に 38ns、地上に静置された原子時計の計測時間よりも「進んでしまう」ので、地上にある原子時計と計測時間がまったく同じとなるように、打上げ前に、GPS 側の原子時計の振動数を調節します。調節後に、打ち上げられて軌道にのった GPS の原子時計と地上の原子時計とは予定どおりに、まったく同じ時間を刻みます。このことで GPS が正確に機能しています。現代物理学界は、これをもって、アインシュタインの相対性理論は正しい、「万物は無条件に 4 次元の時空に従うことが証明された」と、説明しているのです。

ですが、ここでよく考えてみてください。アインシュタインの相対性理論は、「万物は無条件に 4 次元の時空に従う」というのです。そして、理論の予測通りに、「地上で組み立てられた原子時計は、高度 2 万 km 上空で、一日に 38ns、地上に静置された原子時計の計測時間よりも『進む』ことが確かめられたと言うのです。これこそ、「万物は無条件に 4 次元の時空に従う」の証明。そして、さらに「地上にある原子時計と計測時間がまったく同じとなるように、打上げ前に、GPS 側の原子時計の振動数を調節します。調節後に打ち上げて、軌道にのった GPS の原子時計と地上の原子時計とは予測どおりに、まったく同じ時間を刻み、GPS は正確に機能しています」と説明するのです。

そう！ 物理学界の説明には、明らかな自己矛盾があるのです。「万物は無条件に 4 次元の時空に従う」ことが証明されたのなら、「打上げ前の GPS 側の原子時計の振動数調節は必要ないのではないか」、いかように「打上げ前に、GPS 側の原子時計の振動数を調節した」としても、調節後に打ち上げて軌道にのった GPS の原子時計は、結局、「万物は無条件に 4 次元の時空に従う」に素直に従って、必ず、一日に 38ns の進みを見せるはずですが、そうはなっていない。地上の原子時計とシンクロしている。すなわち、振動数調節された原子時計は、アインシュタインの相対性理論「万物は無条件に 4 次元の時空に従う」に従っていない。

繰り返すが、事前に振動数調節された GPS の原子時計は、アインシュタインの相対性理論「万物は無条件に 4 次元の時空に従う」に従っていない。「原子時計は、独自の振動数で時間を計測するのだが、重力や遠心力の影響を受ける」これが、仲座の新相対性理論による説明です。すなわち、地上から数万 km の上空や、スカイツリーの上部へと原子時計を移動させるとその原子時計は、地上とは異なる時間刻みとなる。光（電磁波）が太陽の重力の影響を受けて、軌道の曲がりを見せるのも然りです。仲座の新相対性理論は、「万物は無条件に 4 次元の時空に従う」と説くのではなく、「電磁現象を観測すると、それらは重力や遠心力（加速度）、そして相対速度の影響を受けて観測される」と説きます。その影響の程度を「解く」のが仲座の新相対性理論となるのです。

仲座の新相対性理論によれば、「原子時計は、高度 2 万 km 上空で、重力と遠心力（加速度）の変化を受けて、一日に 38ns、地上に静置された原子時計の計測時間よりも『進む』

と説明されます。したがって、「地上の原子時計の時間と GPS の時間とを同調させるには、  
打上げ事前に、振動数の調節が必要となる」と説明します。

これまで、現代物理学界が「アインシュタインの相対性理論の実証」として説明してきた  
ことは、まったくの反対の意味であり、正しくは「アインシュタインの相対性理論の誤りの  
証」として我々に訴えていたこととなります。現代物理学界は、理論と実験の数値上の一致  
のみに目を奪われて、実験結果の意味を考えることなく、「アインシュタインの相対性理論  
の実証」という誤謬を犯し続けてきたのです。

アインシュタインの相対性理論では、万物が4次元の時空に無条件に従うことになるので、  
原子時計を衛星の周回軌道に移動させたとしても、原子時計は、4次元の時空に従って時間  
刻みが進むため、進んだ時間を進んだ時計で計測することは不可能となり、「なんらのズレ  
も計測されなかつた」がアインシュタインの相対性理論の正しい観測結果となるはずで  
す。だが、先に説明したように、そうはなっていない。「時間の進みが計測されている」し、  
原子時計は、人工的な調節に従っているのです。これが、アインシュタインの相対性理論の  
自己矛盾となります。

こうして、仲座の新相対性理論は、現代物理学界の物理学に革命をもたらせます。我々が電  
磁波観測によってこれまで正しいとしてきた宇宙像はすべてひっくり返ることになるので  
す。アインシュタインの相対性理論は、天動説と同じ運命をたどることになるのです。

参考文献：

1. 仲座栄三、新相対性理論（物理的思考編）、ボーダーインク、363p.、2023.
2. 内山龍雄 訳・解説：アインシュタイン相対性理論、岩波文庫、187p.、1988.
3. Eizo NAKAZA: NEW THEORY OF RELATIVITY THAT USES GALILEAN TRANSFORMATION AS BASIS OF TRANSFORMATION BETWEEN INERTIA COORDINATE SYSTEMS, Journal of Science, Disaster Prevention, and Environmental Research (Physics), Vol.1, No.1, 1-10, 202.

本資料を参考・引用の際には、出所を明確に付記してください。

質問やコメントは、coastalen@gmail.com へご連絡ください。